

※答えはすべて解答用紙に記入しなさい。すべての問題において句読点も一文字に数えます。

一

次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

21世紀に入って「**①役に立つ科学**」ということがしきりに強調されるようになりました。通常、「役に立つ」とはイノベーション（技術革新とそれに伴う生産・経営形態の更新）に大きく**②キヨ**するという意味であり、単純に言えば、経済の活性化に役立ち、金儲けにつながる革新的技術への貢献と言えるでしょうか。企業が新規事業を起すことに力を尽すとか、企業が売り上げを伸ばして成長するのに役立つというふうには、科学が実利的な意味で役に立たねば意味がない、とまで言う人もいます。あるいは、「我々は**※1霞**を食べて生きていくのではない」とか「誇りや倫理ではお腹が膨れない」と言い、実際の経済的な価値が生み出せない科学を否定する人もいます。むしろ、そのような人も、問われれば「基礎的な研究が必要」とは言うのですが、それはすぐに応用され利益を生むものでなければならず、「いつまでも基礎研究だといって甘えていては困る」と念を押すのです。

基礎研究とは、モノになるかどうかわからない野心的なテーマに研究者が果敢に**③チヨウセン**する研究で、そこからノーベル賞級の大きな成果が得られて成功することもあるけれど、何ら目ぼしい成果が得られず不成功に終わることもあります。というより、成功するよりも不成功である（あるいはごく小さな成功でしかない）方が**A**的に多いでしょう。実際、多くの研究者がノーベル賞を目指して研究に勤**④**しっていますが、ほんの少数しか成功せず、ほとんどはたいした業績を残せずにいます。では、**⑤損な研究**はムダで無意味であり、研究者が多くいる必要はないのでしょうか？

そんなことはありません。研究において不成功であった場合も、大きな仕事に繋がらなかつた場合も、やはり意味があるのです。次の世代の研究者が同じ失敗をせずに済むからであり、次の研究が成功するためのヒントを与えることになるからです。研究とは、いわば、まだ誰も通つたことがない荒野に道をつけて、なんとか**⑥目的**地に辿りつこうとする行為のようなものです。その過程で研究者は、雑草を刈り取り、倒木を片付け、岩や石を取り除き、川があれば橋をかけ、というふうな作業を行つていくのです。そのようにして、数多くの研究者がけもの道から徐々に人が通る道へと整備した結果、**⑦ケワ**しい断崖を越えて目的の**※2豊穰**の地に行きついた最後の研究者がノーベル賞を獲得していると言えるのです。

（池内了『なぜ科学を学ぶのか』による）

【注 釈】

※1霞を食べて生きている……社会を離れ、収入もなく暮らしていることのととえ。仙人は霞を食べて生きているといわれていることに由来する。

※2豊穰の地……穀物が豊かに実っている土地。

問一 二重傍線部②③④のカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。

問二 波線部「研究とは、いわば、……のようなものです」に用いられている表現技法を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 直喩 ウ 隠喩 エ 体言止め

問三 空欄 A に当てはまる最も適切な語句を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 主体 イ 基本 ウ 圧倒 エ 科学

問四 傍線部①「役に立つ科学」と対義的な意味で用いられている語句を本文から十八字で抜き出しなさい。

問五 傍線部②「損な研究」について、筆者が「損な研究」を必要と考える理由を四十字以上、五十字以内で説明しなさい。

受験番号

※ 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。すべての問題において句読点も一文字に教えます。

問六 本文の内容の説明として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 昨今では現実的な利益をもたらす科学が発展し、多くの企業が売り上げを伸ばして成長している。
イ 実利的に役に立たない科学を否定的に考える人が増えたため、基礎的な研究が衰退しつつある。
ウ 社会に貢献することはないが、それを覚悟のうえで行われる研究を、一般に基礎研究という。
エ ノーベル賞を獲得する研究者が現れるまでの過程に、数え切れないほどの基礎研究の蓄積がある。

二

巧が座長を務める劇団シアターフラッグに入団希望者である二十五歳の羽田千歳が入団を希望して訪ねてきた。「こんにちは」の一言にできる限りのバリエーションをつけるという入団テストで、彼女が見せた演技は劇団員全員の意表をついた。これに続く文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

受験番号

① 全員が言葉をなくした。

バリエーションをつけるといったら、シチュエーションを変化させるのが一般的だ。ところが彼女は台詞を喋る人物の側を変化させたのである。子供から大人、そして女と男まで。彼女の声に現れなかったのは熟年男性くらいのものである。さすがに声質の限界があるのたろう。それにしても——広い。

これはすごい逸材が来た、とみんな色めき立った。ところが、動きをつけた課題では精彩を欠いた。

悪くはない。水準はクリアしている。だが、それ以上のものではなかった。基本をしっかりと勉強している感じはあるが、勉強したことをきちんとやっています的な硬さがそこかしこに見える。

台詞の巧さと動きの硬さがアンバランスで、良くも悪くも印象的だった。

「どう見る、あれ」

「台詞は巧いんだけどなあ。台詞が巧いだけに動きが悪くなると不自然さが際立つな。おい、女優から見てどうよ」

「^④稽古である程度は調整つくと思うけど……いきなり上達は無理でしょ、そんなの誰だって不可能よ」

「でも、あの声に動きが追いついたら化けるぜ」

「将来楽しみな物件ではあるな」

テストが終わって好き勝手に論評していた仲間の一人が、空港名を足しっぱなしした冗談のようなその名前に覚えがあると言い出した。

羽田千歳。

名前を検索すると、その正体はプロの声優だった。

「うわっ、何だこの芸歴！ めっちゃ売れてね!!」

二十五歳にして既に十年以上の芸歴があった。滑り出しは児童劇団で、途中で声優にシフトしたという。主役こそ少ないが重要なレギュラーキャラクターを演じることが多い実力派らしい。

台詞が巧いわけである。

「なあ、ファンけっこうついてるらしいぜ。集客期待できるんじゃない？」

仲間が言ったような計算もあったことは否定しない。

だが、巧は履歴書の志望動機を確認した瞬間、採用することを決めていた。

志望動機の欄には、いかにも女の子っぽい丸文字で——

『演劇を見慣れていない人でも気軽に楽しめる分かりやすい舞台がとても好きです』

そう書いてあったのだ。

春川巧の脚本は分かりやすすぎる、といつも批判されていた。

軽い。うすっぺらい。深みがない。

※ 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。すべての問題において句読点も一文字に教えます。

客が単純に笑って帰れる芝居があってもいいじゃないか。
分かりやすくして何が悪い。誰にでも分かる芝居で何が悪い。そう思っただけはいたものの、まともに批判が耳に入るといつも揺らいだ。

おもしろかった。けど軽いから減点。

公演のアンケートでこんな感想が返ってくると泣きたくなかった。シアターフラッグの持ち味は軽快さだ。軽さによるおもしろさを楽しんでおきながら、軽いことが悪いと言うのならどうすればいいのか。

軽快という価値観は最後の最後でどうして[※]瑕疵^{かし}になるしかないのか。だ^②とすれば自分は永遠にギズモノしか作れない。仲間をギズモノづくりに付き合わせることはできない。

X、羽田千歳はそんなシアターフラッグを好きだといって応募してきたのだ。

声優と役者は分野が違う、しかし分野は違っても芸事で食っているプロが自分たちの芝居を好きだと――

俺の書いたものは、俺たちの作っていたものは、ちゃんとプロに届くんじゃないか。十年以上も芸事でメシを食ってきた羽田千歳に届いたんじゃないか。

――なら、俺も。

届くのならそこへ行きたい。彼女がやってきたその世界へ――自分の芸で金を^①稼^とぐプロの世界へ。

自分たちを認めてくれた彼女と同じ場所に立ちたい。追い着きたい。

仲間たちも^③その思いを分かってくれればと信じていた。

(有川浩『シアター!』による)

【注 釈】

※1 履歴書……就職試験の際に提出する書類。自分自身の経歴を記す。

※2 瑕疵……きず。欠点。

問一 二重傍線部①～③の漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

問二 波線部A「さすがに声質の限界があるのだろう」を文節で区切った場合、文節はいくつありますか。漢数字で答えなさい。
い。

問三 波線部B「精彩を欠いた」の意味として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 生き生きとした様子がないこと イ 色が鮮やかでないこと
ウ 努力が見られないこと エ 正確さが足りていないこと

問四 空欄 X に当てはまる最も適切な言葉を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ましてや イ だから ウ さらに エ けれど

問五 傍線部①「全員が言葉をなくした」について、次の文章はその時の心情を説明したものです。空欄（Ⅰ）・（Ⅱ）に当てはまる適切な言葉を（Ⅰ）は八字、（Ⅱ）は四字で文章中からそれぞれ抜き出しなさい。

同じセリフにバリエーションをつけるとしたら、一般的には（Ⅰ…八字）を変化させるが彼女は（Ⅱ…四字）以外のあらゆる人物に変化させ、それに驚いたから。

受験番号

※答えはすべて解答用紙に記入しなさい。すべての問題において句読点も一文字に教えます。

問六 傍線部②「だとすれば自分は永遠にキズモノしか作れない」とありますが、その理由として最も適切なものを

次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 観客は軽いことが面白いという価値観だが、自分の脚本にはないものだったから。
 イ 観客は深みのある芝居を求めているが、自分には才能がなく作ることができないから。
 ウ 自分は軽快さを持ち味として考えているが、観客はそれを欠点として捉えるから。
 エ 自分は軽快さのある脚本を作りたいが、仲間の意見は全く違うものであるから。

問七 傍線部③「その思い」とありますが、それはどのような思いですか。「という思い。」に続く形で、二十字以内

で答えなさい。

受験番号							
------	--	--	--	--	--	--	--

三

次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

「牛を売る者あり。買ふ人、明日その^{※1}価をやりて牛をとらむと言ふ。夜の間に牛死ぬ。買はむとする人に利あり、売らむとする人に損あり」と語る人あり。

これを聞きて、^{※2}片方なる者のいはく、「牛の主、まことに損ありといへども、また大きな利あり。その故は、生あるもの、死の近きを知らざること、^{※3}牛既にしかなり。①人また同じ。はからざるに牛は死し、^②はからざるに主は存ぜり。一日の命、^{※4}万金よりも重し。牛の価、^{※5}鷲毛よりも軽し。万金を得て^{※6}一銭を失はむ人、損ありといふべからず」と言ふに、^③皆人嘲りて、「その理は、牛の主に限るべからず」と言ふ。

〔徒然草〕(第九十三段)による)

【注 釈】

※1 価……代金。

※2 片方なる者……話をそばで聞いていた者。

※3 牛既にしかなり……「この牛がすでにいい見本だ」の意。

※4 万金……大金。

※5 鷲毛……がちょうの羽根。

※6 一銭……わずかなお金。

問一 波線部「いへども」を現代仮名遣いに直しなさい。

問二 二重傍線部「理」の読みをひらがな四字で答えなさい(現代仮名遣いでよい)。

問三 傍線部①「人また同じ」とありますが、人と牛が「同じ」なのはどのようなことですか。その内容を本文から十一文字で抜き出しなさい。

問四 傍線部②「はからざるに主は存ぜり」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適切なものを次のア～

エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 牛の飼い主は生に執着していたため、死んだ牛と違って生きていること。
 イ 牛の飼い主は日ごろ特に死や生を意識していなかったが、生きながらえたこと。
 ウ 自分の損得を考えていないので、牛の飼い主は長生きできること。
 エ 牛の飼い主が将来について思いを巡らせず、のうのうと生きていること。

※答えはすべて解答用紙に記入しなさい。すべての問題において句読点も一文字に教えます。

問五 傍線部③「皆人嘲り」とありますが、人々が「片方なる人」を馬鹿にしたのはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 牛の価値が一日生きながらえた命の価値よりも重いということで、牛を売らないと生活で
きずに死んでしまうから。

イ 命の価値は大金に代えがたいというのは人間に限った話ではなく、牛などの生き物も同じで、牛の死は重
大な損失にほかならないから。

ウ 得をしたのは生きながらえた牛の飼い主に限らず、翌日に死ぬ牛を買わずにすんだ人も得をしているとい
えるから。

エ 大金よりも価値のある一日の命を得ているのは牛の飼い主以外にも当てはまり、今こうして生きている者
はみな得をしていることになるから。

受験番号

四

後の各問いに答えなさい。

問一 書き下し文を参考にして、次の①～③の各漢文にそれぞれ返り点をつけなさい。(送り仮名は不要)

① 乗 船 将 欲 行。(船に乗りて将に行かんと欲す。)

② 对 月 憶 元 九。(月に対して元九を憶ふ。)

③ 恶 事 行 千 里。(恶事千里を行く。)

問二次の①・②の各漢文をそれぞれ書き下し文にしなさい。

① 一 人 飲 之 有 余。
レ

② 処 処 聞 啼 鳥。
二

一

問六	問五			問四		問二	問一
エ	る	る	次	い	実	イ	㉔
	き	こ	の	科	際		寄与
	つ	と	世	学	の	問三	
	か	を	代		経	ウ	㉕
	け	防	の		濟		
	に	ぎ	研		的		挑戦
	な	、	究		な		
	り	次	者		価		㉖
	う	の	が		値		
	る	研	同		が		㉗
	か	究	じ		生		
	ら	が	失		み		険
	。	成	敗		出		
		功	を		せ		しい
		す	す		な		

二

問七		問六	問五	問二	問一
ち	自	ウ	(I)	四	㉔
た	分		シ		けいこ
い	も		チ	問三	
	彼		ユ	ア	㉕
	女		エ		
	と		ー	問四	すべり
	同		シ	エ	
	じ		ヨ		㉖
	プロ		ン		
	の		(II)		㉗
	世		熟		
	界		年		かせぐ
	に		男		
	立		性		

という思い。

三

問四	問三	問一
イ	死	いえども
	の	
問五	近	問二
	き	
エ	を	ことわり
	知	
	ら	
	ざ	
	る	
	こ	
	と	

四

問二		問一		
②	①	③	②	①
処処啼鳥を聞く。	一人之を飲まば余り有り。	悪事行千里。	対月憶元九。	乗船将欲行。

受験番号

--	--	--	--	--	--